

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業

令和4年度に終了した試験研究課題の事後評価結果及び行政における研究成果の行政施策・措置への反映について

課題番号	試験研究課題名及び実施研究機関	実施期間(年度)	研究概要	評価所見	総括評価	研究成果の行政施策・措置への反映
22682068	農業環境(水、土壌等)からの農産物への PFOA 及び PFOS 等の PFAS の移行(蓄積動態)に関する基礎研究 【実施研究機関】 農水(RS 研究) PFAS コンソーシアム ・(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 ・(国研)産業技術総合研究所 ・(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所	R4	(背景・目的) PFAS は水や土壌から農畜水産物や飲料水等を介してヒトの体内にも蓄積し、健康に悪影響を及ぼす可能性が指摘されている。農畜水産物の PFAS のリスク管理の必要性を検討するためには、環境水や土壌から農畜水産物への PFAS の移行の情報が重要になるが、十分な知見が得られていない。 そこで、本研究では、農地土壌における PFOA 及び PFOS を含む多種 PFAS の一斉分析法の検証や PFAS の土壌から農産物への移行・蓄積に関する予備的な研究を実施した。 (研究項目) ① 農用地土壌や農産物などにおける PFOA 及び PFOS を含む多種 PFAS の一斉分析法の検証 ② 国産農産物への移行、蓄積が懸念される PFAS の分子種の予備的な探索等	・研究期間が限られていた中で「土壌中の多成分 PFAS 一斉分析暫定マニュアル」を作成した。検出下限(MDL)、定量下限(LOQ)、低濃度回収率、複数土壌型による影響、抽出工程の検証・評価が不十分であることから、今後、更なる検証や必要な改良を重ねた上で、暫定分析法として完成させることが期待される。 ・農作物への PFAS の移行・蓄積のデータについて、予備的なデータであることから、未だ移行係数や蓄積しやすい PFAS 種の特定・絞り込みには至っていない。しかし、今後、農作物への PFAS の移行・蓄積について研究を進めていく上で参考となるデータが得られたものと考えられる。 ・PFAS の分子種の探索については、多種 PFAS の分析は行ったものの、懸念される PFAS の絞り込みにつながるような成果にはならなかった。 ・土壌分析は妥当性が確認できておらず、報告書に記載の測定値の信頼性については更なる検証が必要。このため、報告書記載のデータを用いて土壌からの農産物の移行係数の算出は推奨されないことなど、留意点の明示が必要と考える。 ・農業用水や農地土壌のサンプリング法の検討と提案についても十分とは言えず、今後の更なる成果を要する。	B	・暫定マニュアルは、自治体が実施する農地土壌の調査等で活用 ・令和5年度より実施している後継試験研究課題や別途実施するポット試験等の基礎データとして活用

＜総括評価の説明＞

- A: 研究目標を達成し、研究成果を行政施策・措置に十分に活用できる。
- B: 研究目標の達成に至っていない部分もあるが、行政施策・措置に活用できる成果が得られている。
- C: 研究目標はやや達成されておらず、行政施策・措置への活用には更なる成果を要する。
- D: 研究目標の達成は不十分であった。